

# 「こしいぶき」栽培ごよみ（平場）

## ◎540kg/10aの収量構成

穂数	380本/㎡
1穂粉数	75粒
㎡あたり粉数	28,500粒
登熟歩合	88%
千粒重	21.5g

## ◎品質目標

1等級比率	95%以上
整粒歩合	85%以上
玄米タンパク含有率	6.2% (水分15%換算)

## ◎元肥の目安（成分量kg/10a）

土性	N	P	K
粘土質	3.0	7.0	6.0
砂質	4.0	8.0	6.0

## ◎追肥（穂肥）の目安（成分量kg/10a）

穂肥時期	N	P	K
出穂23日前	1.5	0.4	1.5
出穂14日前	1.5	0.4	1.5

※地力・生育量に応じて施肥量を加減する

## ◎土づくり肥料

肥料名	施用量 kg/10a	成分量 kg/10a			
		N	P	K	Si
えちご上越 ソイル元気	40~	-	8.0~	1.4~	4.4~
	60	-	12.0	2.1	6.6
越後の輝き ソイル米スター	30	-	0.3	2.1	9.0
けい酸加里プレミアム34	50	-	-	10.0	17.0
追肥 スーパーシリカプレミアム	30	-	-	-	9.0

※N:窒素、P:リン、K:加里、Si:ケイ素

## ☆施肥設計モデル

肥料名	施用量 kg/10a	成分量 kg/10a			
		N	P	K	Si
土づくり肥料より一つ選択		(左記数値を参照)			
高度化成オール14	25	3.5	3.5	3.5	-
えちご上越専用 穂肥チャレンジャー	20	3.0	0.8	3.0	-
土づくり肥料より一つ選択		(左記数値を参照)			
早生スーパー元肥 パワフル30	20	6.0	2.0	1.2	-

※一発元肥体系でも、生育状況に応じて追肥（穂肥）を実施する

月	4		5		6		7		8		9	
日	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20

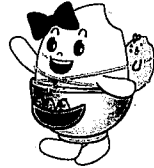
### ◎品種特性

草型：中間  
耐倒伏性：やや強  
いもち病：中  
紋枯病：弱

茎数 (本/㎡)	———
草丈 (cm)	- - - - -
葉数 (L)	.....
葉色 (SPAD)	.....

### ◎育苗期農薬設計モデル

種子消毒：モミガードC水和剤  
育苗期：カスミン粒剤  
タチガレン粉剤  
ダコニール粉剤  
ルーチンブライト箱粒剤



### 茎数(本/㎡)

500 (4月20日頃) → 460 (5月20日頃) → 80 (6月20日頃) → 380 (7月20日頃) → 80 (8月20日頃)

### 草丈(cm)

45 (4月20日頃) → 60 (5月20日頃) → 380 (6月20日頃) → 380 (7月20日頃)

### 葉色(SPAD)

40 (4月20日頃) → 40 (5月20日頃) → 36 (6月20日頃) → 34 (7月20日頃)

### 葉数(L)

7.0 (4月20日頃) → 9.5 (5月20日頃) → 10.8 (6月20日頃) → 13 (7月20日頃)

### ◎カメムシ防除：スタークル粒剤

80 (6月20日頃) → 80 (7月20日頃)

出穂期  
7月30日頃

成熟期  
9月7日頃

中干し

穂肥①

穂肥②

○生育量を確保するため、4月中旬の播種及び5月上旬の田植えを実施。

- ・播種量 稚苗 160～175g/箱（催芽粉）
- ・稚苗は、20日間程度の育苗日数となるよう田植えに合わせて播種し健苗を育成
- ・浸種は十分に行う（特に浸種初期水温10℃～15℃）
- ・箱施用剤でのいもち病、紋枯病の予防
- ・栽植密度50～60株/坪、1株3～4本植え

○茎数及び粉数過剰を防止するため、適正な元肥窒素量を施用。

○分けつが発生状況を把握し目標穂数の7～8割の茎数を確保したら中干しを開始。

- ・50株 → 19本/株
- ・60株 → 16本/株

○いもち病・紋枯病の発生を確認したら速やかに防除する。

- ・いもち病：ブラシン粉剤DL
- ・紋枯病：バリダシン粉剤DL

○出穂25日後までは飽水管理を実施し、高温年は出穂30日後まで継続。

○品質確保に向け、圃場ごとに粉の黄化率を確認し適期収穫を実施。

- ・黄化粉割合90%
- ・出穂後の積算温度975℃
- ・適正乾燥で胴割れ防止

生育の推移

栽培のポイント

# 「こしいぶき」栽培ごよみ (中山間)

## ◎510kg/10aの収量構成

穂数	360本/m <sup>2</sup>
1穂粒数	74粒
m <sup>2</sup> あたり粉数	26,500粒
登熟歩合	90%
千粒重	21.5g

## ◎品質目標

1等級比率	95%以上
整粒歩合	85%以上
玄米タンパク含有率	6.2% (水分15%換算)

## ◎元肥の目安 (成分量kg/10a)

土性	N	P	K
粘土質	3.0	7.0	6.0
砂質	4.0	7.0	6.0

## ◎追肥 (穂肥) の目安 (成分量kg/10a)

穂肥時期	N	P	K
出穂23日前	1.5	0.4	1.5
出穂14日前	1.5	0.4	1.5

※地力・生育量に応じて施肥量を加減する

## ◎土づくり肥料

肥料名	施用量 kg/10a	成分量 kg/10a			
		N	P	K	Si
えちご上越 ソイル元気	40~	-	8.0~	1.4~	4.4~
	60	-	12.0	2.1	6.6
越後の輝き ソイル米スター	30	-	0.3	2.1	9.0
けい酸加里プレミアム34	50	-	-	10.0	17.0
スーパーシリカプレミアム	30	-	-	-	9.0

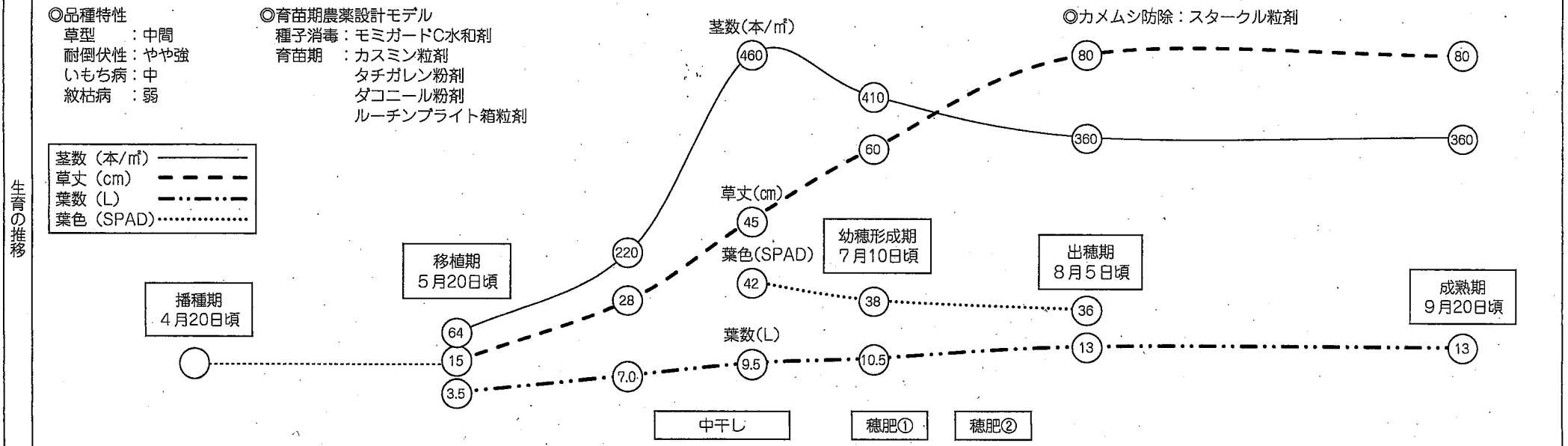
※N:窒素, P:リン, K:加里, Si:ケイ素

## ☆施肥設計モデル

肥料名	施用量 kg/10a	成分量 kg/10a			
		N	P	K	Si
土づくり肥料より一択選択		(左記数値を参照)			
高度化成オール14	25	3.5	3.5	3.5	-
えちご上越専用 穂肥チャレンジャー	20	3.0	0.8	3.0	-
土づくり肥料より一択選択		(左記数値を参照)			
早生スーパー元肥 パワフル30	20	6.0	2.0	1.2	-

※一発元肥体系でも、生育状況に応じて追肥 (穂肥) を実施する

月	4		5		6		7		8		9	
日	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20



○適正生育量を確保するため、4月中旬の播種及び5月中旬の田植えを実施。

- 播種量 中苗 100~125g/箱 (催芽粉)
- 中苗は、30日~35日程度の育苗日数となるよう田植えに合わせて播種し健苗を育成
- 浸種は十分に行う (特に浸種初期水温10℃~15℃)
- 箱施用剤でのいもち病、紋枯病の予防
- 栽植密度60~70株/坪、1株3~4本植え

○茎数及び粉数過剰を防止するため、適正な元肥窒素量を施用。

○分けつが発生状況を把握し目標穂数の7~8割の茎数を確保したら中干しを開始。

- 60株 ⇒ 15本/株
- 70株 ⇒ 13本/株

○いもち病・紋枯病の発生を確認したら速やかに防除する。

- いもち病 : プラシン粉剤DL
- 紋枯病 : バリダシン粉剤DL

○出穂25日後までは飽水管理を実施し、高温年は出穂30日後まで継続。

○品質確保に向け、圃場ごとに粉の黄化率を確認し適期収穫を実施。

- 黄化粉割合90%
- 出穂後の積算温度975℃
- 適正乾燥で胴割れ防止

